（別添様式3）

（京都市立　静原小　学校・園）No.2

3　2回目評価

3－①　自己評価　【 評価日 ：　H26. 2. 27.　　評価者・組織（名称） ：　学校評価委員会　】

	分野	評価項目	評価指標	分析（成果と課題）	改善策
1	確かな学力	基礎的な学力の定着 分かる授業の構築 話す・聞く・読む力の育成 学習習慣の構築	学力定着調査等・学校評価アンケート 校内研究会協議・学校評価アンケート 校内研究会協議・学校評価アンケート 学校評価アンケート	勉強が分かるように児童は、話を聞いて理解しようとしている。毎日，決まった時間，家庭学習をすることは、改善されてきている。校外へ出ての発表交流を続け、いろいろなところで良い評価を得ている。 進んで本を読むことや分かるまでねばり強く勉強することが課題となっている。	児童個々の課題を把握し，個に応じた学習指導をすすめる。児童が主体的に学習に取り組める学習展開，それの土台となる学習規律・学級経営をすすめる。教師の授業改善をさらに進める。
2	豊かな心	自分や人を大切にする気持ちの育成 協力・助け合いの心を育てる 望ましい言葉遣い・挨拶 学校を楽しいと感じる気持ち	道徳教育の充実・学校評価アンケート 道徳教育の充実・学校評価アンケート 学校評価アンケート 学校評価アンケート	元気よく「挨拶」をするとの評価を受けるように、「子どもが楽しく学校に通うこと」「子どもに人を大切にする気持ちが育っていること」は，成果としてあげられる。 課題としては，「丁寧な言葉遣いをすること」があげられる。大人から見た評価は，立場によって多少の差があるが，低学年児童の自己評価は下がっている。	「丁寧な言葉遣い」や「挨拶」は，毎日の積み重ねである。見逃さない指導，繰り返しの指導，全校体制で，地域・保護者もみんなで共通理解して進めていけるようにすることが課題となる。また，児童と教師が自然に会話が進むように休み時間を一緒に過ごすようにする。
3	健やかな体	基本的生活習慣の確立 体力の向上 成長・予防を考えた望ましい生活 望ましい食習慣の確立	すこやか点検・学校評価アンケート 新体力テスト結果・学校評価アンケート すこやか点検・学校評価アンケート 食育指導・学校評価アンケート	子どもが楽しく学校生活を送っていることと連動して，「休み時間元気よく運動場や体育館で運動をすること」が成果としてあげられる。「朝食をとること」「早起き」についても家庭で特に意識されているようで，「朝食」は成果としてあげられる。病気の予防について十分に対応でき、インフルエンザなどの流行を食い止められた。	「夜早く寝ること」「好き嫌い」については，各家庭の事情や児童個々の思いもあり家庭との連携のあり方を確かめながら進めていきたい。また，すこやか点検の活用，早起きの徹底，昼間の活動を積極的に行うようにすることや，みんなで楽しく身体を動かす活動や運動部の活動の充実をさらに進める。
4	学校独自の取組	学習環境の整備 安全な学校であること 学校への参観者を増やす 学校の方針・取組を分かりやすく伝える	学校評価アンケート 安全点検・学校評価アンケート 行事等への参加数 学校通信の配布・HP更新状況	「子どもにとって学校が安全であること」「子どもにとって学校が学習しやすい環境であること」が成果としてあげられる。校舎の広さ，部屋数などすぐにはなかなか改善できない問題もあるが一定の評価を得ている。 学校・学級の取組を分かりやすく伝えることで，魅力ある学校としてアピールし，学校への協力者をさらに増やし、体験活動などの支援体制をさらに強化していく。	児童の安全については，引き続き，しっかり見ていきたい。学校通信やHPを活用して，学校情報を発信し，学校サポートの強化につなげていく。 児童の放課後のすごし方や下校の仕方が変わって，児童の動きが慣れてきたが，安全に生活できるように，見守りを続けていきたい。

3－②　学校関係者評価　【 評価日 ：　H26. 3. 3.　評価者・組織 ：（学校運営協議会）， 学校評議員 （いずれかに〇）　】

評価結果	改善に向けた支援策
学校だけではできない農業・林業・地域を生かしての自然観察活動等への協力を学校運営協議会がしている。その結果，豊かな体験活動を実施することが出来た。本物の体験活動を実施することで，児童の関心や意欲が高まっている。 少人数の良さを生かして，放課後や家庭学習について丁寧に対応されている。今問われている学力（考える力・自分の課題をもって調べようとする力等）が確実に付くように，良い体験を豊かな文章表現に結び付ける日記指導や家庭学習の内容をさらに効果的にして進めていくことがカギとなる。 子どもが自信をもつことが大事である。スポーツでの自信も大きい。校外での試合や交流会で手ごたえをつかむように，取組を継続していただきたい。基礎学力の定着も含めて，中学・高校へと静原を巣立っていったときに，しっかり自分の力を発揮できるようにしてほしい。	学校運営協議会の体験活動への協力体制を続けていく。 図書館のより良い活用に向けて協力していく。 静原の今後の児童数の推移をつかみ，26年度には，静原出身の方が親となって戻ってこられる例があるように，住む場所の確保についても地域として考えていく。

4 総括・次年度の課題

基礎・基本的な学力の定着・向上が，どの子にも，確実なものとなるように個に応じた指導をさらに続けていこことが課題となる。大人が答えをすぐに出してしまうのでなく児童が問題意識を持ち探究し続けるような指導の構築が望まれる。高学年が，下学年の面倒を見るようになったり，活動や遊びの場面でみんなをひっぱって行こうとする場面をよく見かける。この様な状況を続けていくことが課題となる。また，児童が前向きにチャレンジしていく姿，礼儀正しくふるまおうとする姿などは地域の方が学校に来られていろいろな体験活動に関わっていただいていることが大きく影響している。地域ぐるみの学校運営をさらに継続発展できるよう情報の発信と共に，地域との情報の共有を進めていくことで，よりしっかりと地域と結び付いた学校となる。